

登録簿(鳥獣保護管理捕獲コーディネーター)

登録番号	C15001		
(ふりがな) 氏名	みうら たかのり 三浦 敬紀		
連絡先	名称	株式会社九州自然環境研究所 野生動物保護管理室	
	役職	取締役副所長	
専門分野	鳥獣保護管理捕獲コーディネーター		
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ) <input type="checkbox"/> その他 ()		
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input type="checkbox"/> 関東 <input type="checkbox"/> 北陸 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 近畿 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄		
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>ニホンザルでは熊本県の野生サルモニタリング調査に従事。 アライグマでは佐賀県・熊本県のアライグマの生息実態調査、環境省(九州)「九州地方アライグマ防除啓発事業」に従事。 イノシシでは農林水産研究高度化事業でイノシシの行動を利用した捕獲技術の開発に従事。 ニホンジカでは熊本県「球磨地域シカ対策プロジェクト」、林野庁(九州)「野生鳥獣との共生に向けた生息環境等整備調査事業」「シカ被害から希少種等を保護するための調査業務」「森林保全再生整備に係る鳥獣の誘引捕獲事業」、環境省「ヤクシカの適正管理方策検討業務」等によりニホンジカの管理捕獲にも従事し、低経験値でも捕獲効率を高め、安定的な捕獲が出来る輪番移動式捕獲法を確立させる。 その他、九州各県、市町村等より受託した鳥獣害対策に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録</p>		

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関り情報の提供をします。

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

三浦 敬紀

株式会社九州自然環境研究所

《熊本県第002号認定鳥獣捕獲等事業者》

事業内容

福岡県英彦山二ホンジカ指定管理鳥獣捕獲等事業

事業の背景と目的

耶馬日田英彦山国定公園の英彦山及び犬ヶ岳地区においては、二ホンジカ食害による生態系被害が深刻化しており、被害を受けた生態系の回復を図るため、指定管理鳥獣捕獲等事業による二ホンジカの捕獲を実施している。

実施した内容

福岡県耶馬日田英彦山国定公園内の英彦山周辺地域において、二ホンジカの管理捕獲を実施した。二ホンジカの生息密度が高い集落や林道等から離れた高標高地域（奥山地域）での管理捕獲を試行的に行った。管理捕獲において捕獲された二ホンジカは、地域の食肉処理加工施設と連携し、二ホンジカの肉の有効利活用を図った。また、捕獲実施地域内での二ホンジカの流入状況調査、二ホンジカの行動追跡調査に伴う生体捕獲を実施した。

事業の成果

平成29年度は管理捕獲目標頭数260頭で、雌162頭、雄141頭の計303頭、平成30年度は管理捕獲目標頭数250頭で雌139頭、雄116頭の計255頭、令和元年度は管理捕獲目標頭数200頭で、雌109頭、雄93頭の計202頭を捕獲し、3年間で760頭を捕獲した。表1に年度ごとの捕獲頭数及び捕獲効率を示した。平成29年度は、定められたわなの設置基日を満たす必要があり、実際の捕獲期間よりも長期で捕獲作業を実施したため、他の年度と比較して捕獲効率が低くなっている。

対象鳥獣

二ホンジカ

活動地域

福岡県

表1 年度ごとの捕獲頭数及び捕獲効率の推移

年度	わな設置基日数	捕獲頭数	捕獲効率
H29	14,767	303	0.021
H30	7,730	255	0.033
H31	7,940	202	0.025

本事業は同一の狭域地域（約10km²）で継続した管理捕獲が実施されており、わな馴れした二ホンジカ（スレジカ）をいかに作り出さず、1頭の捕獲に係る労力を縮小するかが課題となっている。そこで、自身が開発した「輪番移動式捕獲法（図1）」及び「猟場小休止捕獲法（図2）」を取り入れ、捕獲従事者へ直接指導を行い、また自身も捕獲作業に直接携わることで、効率的で安定した管理捕獲を実現している。奥山地域での管理捕獲では、捕獲実施場所まで片道1時間程度の登山が必要であり、捕獲個体の人肩による搬出と併せて安全面、体力面、精神面等の課題があった（写真1）。生息密度の高い奥山地域での管理捕獲は今後重要となってくると考えられるが、捕獲に係る労力の省力化を目指した低コストでの搬出法の開発や捕獲個体の放置も視野に入れた検証等を進めていく必要がある。

輪番移動式捕獲法とは

- ①捕獲する地域（エリア：約1.5～2km²）を下図のA～Dのようにあらかじめ**3～4ヶ所**程決めます。
- ②くくりわな**20基**を用い、それが**常時稼働**している状態にします。
- ③設置したくくりわなに**3～5日間**シカの捕獲が無い場合は、くくりわなを利用頻度の高い、鮮度の高い痕跡がある獣道へ**小移動**させます。
- ④**10～20日間**程度で、くくりわな20基全部を次の地域へ**大移動**させます。
- ⑤これらを繰り返し行うことで、スレジカを作らずに安定した管理捕獲が出来ます。

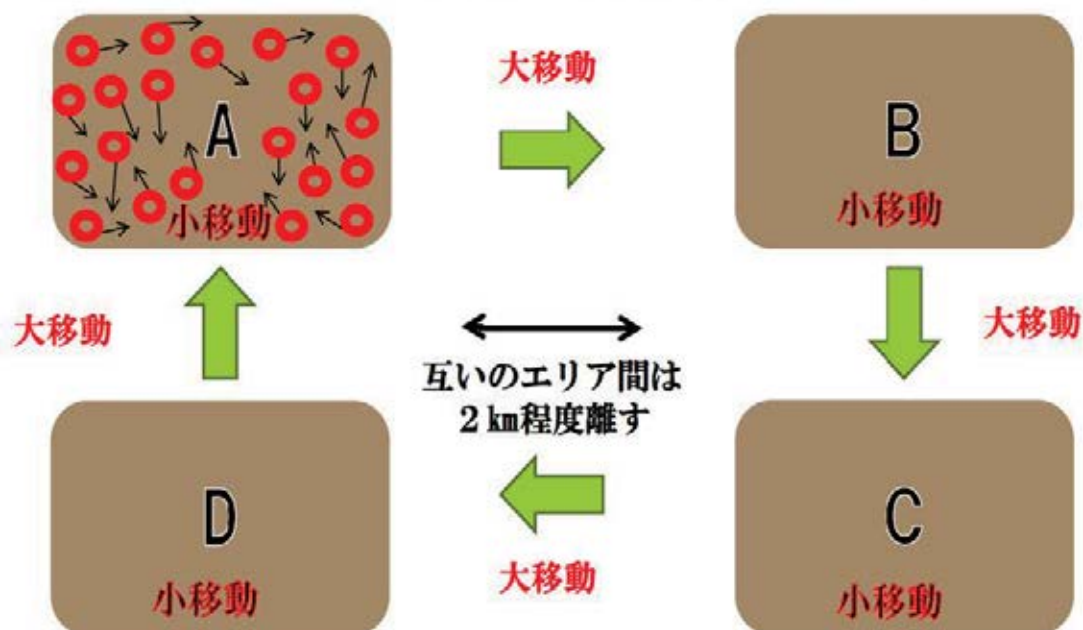


図1 輪番移動式捕獲法

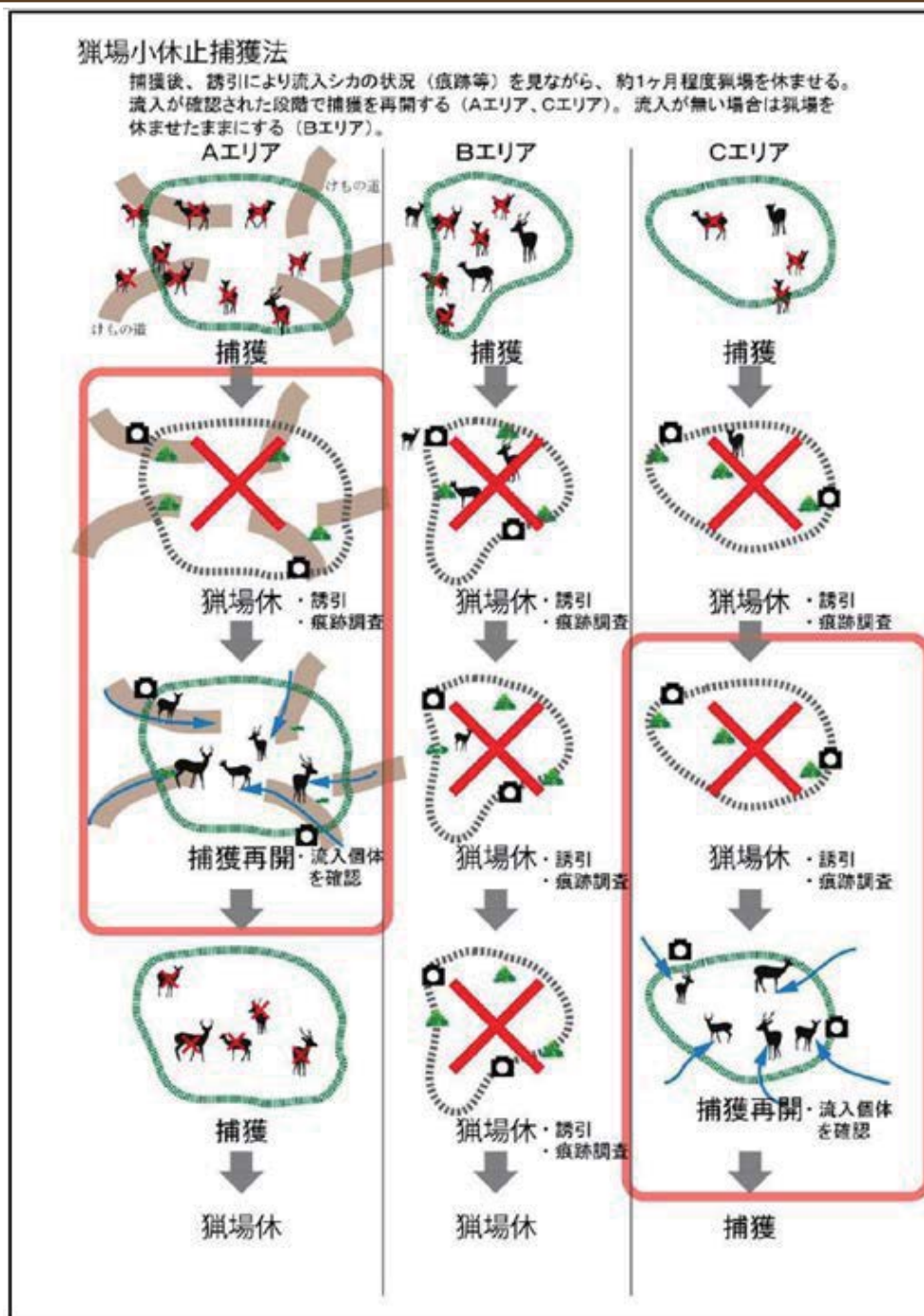


図2 猟場小休止捕獲法



写真1 高標高地域での捕獲個体の搬出例